

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【日進小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりが主体的に課題を設定したり、問題を解決したりする力が一層必要である。 <p><指導上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びを実現するための時間設定が不十分である。 	<p><授業改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して単元の復習問題に取り組み、児童が成長や課題を実感できるようにする。【毎単元】 ・問題を解決するために必要な活動時間を十分に確保する。【毎時間】 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの学びにおける「主体的な学び」の項目①・④・⑤について、肯定的な回答を90%以上にする。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の友達とで話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりする力が一層必要である。 <p><指導上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働的な学びの場面設定や方法に改善の余地がある。 	<p><授業改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決する際、「友達と話し合う活動」を設定する。【毎時間設定】 ・ICTを活用して、コメント機能や共同編集を位置づけ、協働的な学びができるように授業を計画する。【毎単元設定】 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの指標における「探究的な学び」及び「ICTの効果的な活用」の項目②・③・⑤について、肯定的な回答を90%以上にする。

⑤	評価(※)	調査結果	授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現			

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p><国語>言葉の特徴や使い方に関する事項、特に漢字を文の中で正しく使っているかどうかについて課題がみられた。「敬語」を正しく書く問題で、正答率は37.3%、無回答率は18.7%だった。誤答を見ていくと、「敬」が書けない児童と「動」が書けない児童がほぼ同数いた。「敬」の「立」部分を「土」と書き間違えたり、左右で「元」の部分の向きを間違えたりしている誤答が目立った。このことから、漢字の大まかな形は覚えていたため、タブレット等で入力する分には書けるが、自分で正しく書くことについては課題が定まりたいと考えられる。</p> <p><算数>問題文の数量の関係を読み、式で表せるかどうかについて課題がみられた。正答率は59.0%、無回答率は0.7%だった。正答は「72+28」だが、誤答はほぼ全て「72-28」だった。問題文の中に「より少ない」という言葉が入っており、それに釣られて引き算の回答を選んだと考えられる。このことから、問題文を整理して想像しなから読むことにより、力を入れて指導する必要があると考えられる。</p>	
思考・判断・表現	<p><国語>話すこと・聞くこと、特に資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかについて課題がみられた。正答率は47.8%、無回答率は1.5%だった。問題文や資料から、情報を正しく整理することができる。誤答を選んではまったと考えられる。また、目的に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方を工夫することに課題がみられた。事実と感想、意見を区別せずに、事実を自分の考えのように書いてしまっている誤答が目立った。</p> <p><算数>球の直径の長さで立方体の一面の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がみられた。指導の中で22×3.14というものが立ち、直径×円周率で体積を求められると捉えている児童が多いと考えられる。また、問題文やグラフから必要な情報を読み取ることに課題がみられた。道のりが等しい場合の速さについて、道のりと時間の片だけの情報を使い説明しようとしている誤答が目立った。情報を正しく整理する力、それを表現することに、より力を入れて指導する必要があると考えられる。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	<p>問題を解決するために必要な活動時間を確保できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、復習問題に取り組み時間を十分に確保できていない。 	<p><授業改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習問題に取り組む時間を十分に確保できるように、学習計画を見直し、毎時間目標を設定したり、1時間まとめた振り返りや、授業の振り返りを行う。【毎単元】 ・復習問題に取り組む時間を十分に確保できるように、フラッシュカードやForms等のICTを活用した短時間に取り組む方法を工夫する。【毎単元】 ・学校生活全体で、児童一人ひとりが問題を解決できるように、主題と関連の関係を意識できる問いかけや課題提示の工夫をする。 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの指標における「主体的な学び」の項目①・④・⑤について、肯定的な回答を90%以上にする。
思考・判断・表現	B	<p>教科によって多少の差はあるが、毎時間「友達と話し合う活動」を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の実態に合わせて、ICTの活用を進めている。 	<p><授業改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決する際、対面やクラウドを活用した「友達と話し合う活動」を設定する。【毎時間設定】 ・ICTを活用して、コメント機能や共同編集を位置づけ、一人ひとりが自分に合った学び方を選択できるように授業を計画する。【毎単元設定】 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの指標における「探究的な学び」及び「ICTの効果的な活用」の項目②・③・⑤について、肯定的な回答を90%以上にする。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)